

【国語（現代の国語）】

言語活動〔紹介文〕
文の組み立て・主張と論拠の関係
情報リテラシー

～ClassPad.net の授業支援機能・各種ふせんを活用する～

紹介文を書く活動を通して、文章の書き方や情報リテラシーについて考える授業
構文力を身につけ、引用や出典の示し方とその必要性を理解する。

【本授業の目的・狙い・到達目標】

教師向けの目標：ClassPad.net で共有された紹介文から文章の正しい組み立て方と出典表示を理解
させ、生徒に紹介文の書き方を意識したライティングの実践をさせること。
生徒向けの目標：文を組み立てる要素と、引用や出典の示し方とその必要性を理解し、より良い紹介
文を書くこと。

【ClassPad.net 活用によるメリット】

- ・板書時間削減：事前に作成したデジタルノートのふせんを生徒に配布するだけなので時間削減に。
- ・生徒の集中力アップ：
ネットや SNS の誘惑が無く、生徒の集中が切れない、信頼のある情報で安心して検索させられる。
- ・課題の配布→回収→管理→添削→返却の効率化：授業支援機能を使えば、全ての手順が容易に。

授業の流れ

ClassPad.net での操作

step1

【授業説明】

○キャラクターの心情に合う、適切な表現のセリフ
を創ろう

【目標】

- ・助動詞が持つグラデーションを理解しよう。
- ・状況や相手との関係性(力関係や親密度)を読み取り
多様な英語表現の中から選択・表現しよう。

目的・概要の説明

この授業の目標は魅力が伝わる紹介文を
書けるようになることだと理解させる。

テキストふせんで紹介された日本文化の
紹介文を黙読し、印象・感想・文章の構
成要素を生徒にメモさせる。

紹介文をまとめたテキストふせん
を、授業支援機能を用いて生徒全
員に送信する。

テキストふせんに感想などをまと
めさせる。

step2

シチュエーション①

・登場人物

ダイキ：チームのキャプテン。

厳格な性格で、後輩からは恐れられている。
レン：気弱なルーキー。ダイキには要領しがち。

・状況

甲子園予選の決勝。9回裏満塁の大ピンチで相手の4番打
者が登場。捕手であるダイキはピッチャーのレンに、彼の武
器である「ストレート」のサインを出していた。しかし、
レンは相手がストレートを狙っていることに気づいてい
る。ここで、レンは密かに練習をしてきた、まだ未完成の
カーブを投げたいと考えている。

グループでまとめた意見を 共有する

step1 で作成させたメモをグループ内で共
有させ、より感じが良い紹介文の特徴を
1 枚のふせんにまとめ、紹介文に必要な
文章の構造を読み取らせる。

各グループ内の意見をまとめたテキスト
ふせんを全体に共有し、共通する意見を
まとめさせる。

授業支援機能を用いて個人作成の
ふせんをグループ内で送受信させ
る。

グループ内の意見をまとめたテキ
ストふせんを提示・送信させる。

step3

(例) 勇者と厳格な王様との会話
・勇者の本音：I want to join the vanguard !
※ vanguard : 前衛、先鋒

【どう変換する？】

解釈A (王様が恐ろしくてビクビクしている)
"Would you mind if I joined the vanguard?"
解釈B (先礼のないように、でも希望を伝えたい)
"I would like to join the vanguard."
解釈C (命をかける覚悟が決まっている)
"Please, let me join the vanguard!"
解釈D (遠回しに探りを入れる)
"I was wondering if I could join the vanguard..."

必要な要素を整理する

魅力的な紹介文を書くためには、自らの主張だけでなく、それを支えるための論拠、さらに、文と文のつなぎ方も重要であることを示す。

あらかじめ作成しておいた執筆テンプレートを共有する。

各グループのテキストふせんを一覧表示にしてプロジェクター等で提示する。用意されたテキストふせんに同時編集機能で意見をまとめさせる。
テキストふせんで執筆テンプレートを送信する。

step4

【Individual Work：セリフを創ろう】

1. 3つの作品から1つを選ぶ。
2. 登場人物の心情、関係性、状況などから最も適切な表現を決める。
3. Ex-Word機能で単語を調べ、英訳する。

4. 「なぜその文法を選んだのか」 
「どのような感情・態度と想像したか」を日本語で書く。

出典表示の理由を考え、表示の仕方を理解する

出典を示す理由について、EX-Word 機能の便覧の該当ページを示しながら、説明し、紹介文作成のテンプレートに、出典表示を加える。

出典についてまとめたテキストふせんを送信する。

step5

【Group Work】

1. 各自の「英語のセリフ」と「その文法を選んだ理由（キャラクター解釈）」を発表する。
2. グループ内で議論する。
3. 一番説得力がある、または面白い解釈のセリフをグループの「代表訳」として決定する。
(※全く違う解釈で素晴らしいものがあれば、2つ提出してもOK)
4. 提出BOXに「代表訳」「理由」を提出する。

個人での執筆作業

用意したファイルふせんの中から、おすすめしたい文化を選択させる。

なぜその文化を紹介したいのか（主論）をまとめさせる。

EX-word 機能の用語集・事典・便覧を使用して、その文化について調べさせる。

主張と論拠の関係を意識しながら、テンプレートに沿ってテキストふせんに紹介文を書かせる。

参考文献を記載させる。

トピックが書かれたファイルふせんを生徒に送信する。

デジタルノートの EX-word 機能のみを用いて文化について検索させる。

テキストふせん上に執筆した紹介文を授業支援機能で提出させる。

step6

【Let's share & Review!】

・他のグループの代表訳を見て、以下の「3つの観点」から一番心が動かされた作品を探そう！

評価の3つの観点
距離感の正確さ：選んだ文法（助動詞）が、キャラクターの関係性にぴったり合っているか？

語彙の工夫：EX-wordで調べた単語が感情をさらに引き立てているか？

解釈の面白さ：「なぜその文法を選んだか」の理由（に説得力があるか？

紹介文を読み合い、評価と反省を行う

評価の規準とフィードバックのやり方を示す。

グループ内でそれぞれが書いた紹介文を読み合い、フィードバックの伝え合いをさせる。

フィードバックからわかった自分の紹介文の反省点をまとめさせる。

個人作成のふせんをグループ内で送受信させる。

評価・反省用のテキストふせんを送信し、書き込まれたふせんを送信させる。

step7

【Summary(まとめ)】

～物語の世界から、現実のコミュニケーションへ～

英語の文法は、テストで点数をもらうための単なる暗記ルールではない。

現実世界であなたが、「相手にどう思われたいか」「相手との関係性をどう守り、どう築いていきたいか」を伝えるための強力なツールになる。

直説法 (Can / Will) と婉曲表現 (Could / Would) の「心の距離感メーター」を使いこなせれば、今後の英語でのコミュニケーションはずっと豊かになる。

まとめ・講評

教員は、生徒に選ばせたテーマについて執筆された政府系サイトや旅行情報誌における紹介文を示す。

それらと生徒が書いた文章を比較しながら、本授業のまとめと講評を行う。

リンクふせんにまとめたプロが執筆した紹介文と生徒から送信されたテキストふせんを全体に提示する。

step8

【参考：副詞で感情の解像度を高めよう】
副詞（really, just 等）は感情を引き立てる。たった1単語
足すだけで、「どうしても！」という必死さや、「これだけ
でいいから...」という控えめなニュアンスを微調整するこ
とができる。

(例)
just （ほんの少し／～するだけでいいから）
really （どうしても）
possibly （ひょっとして）

宿題ではこれらも活用してみよう！

宿題の提示

「自分がクラスメイトに紹介したいもの
についての紹介文」を書くという宿題を
提示し、主論と論拠を意識しながら紹介
文を書き、必ず一つ以上の出典表示をす
ることを指示する。

宿題の課題内容を記したテキスト
ふせんを送信する。生徒は次回授
業までにテキストふせんに回答を
記入し提出する。